

# LAYANG LAYANG

1-2月の出来事

## 子供たちに伝えたい！肌で感じたマレーシアのこと

1月6～12日、国際理解教育・開発教育に関心を持つ北海道の教員12名を対象とした「教師海外研修」の受入を行いました。一行は、6日間をサバ州で過ごし、JICAが実施する生物多様性保全や障害児教育の取組みについて説明を聞くとともに、ホームステイや学校訪問を通じて現地の人々との交流も行いました。また、マングローブの植林やゴムの樹液採取なども体験、マレーシアや国際協力に対する理解を深めました。最終日には大都会クアラルンプールを訪れ、サバの山村との違いに驚くなど、マレーシアの多様な魅力に触れました。個人の旅行ではできない体験から刺激を受け、参加者は、帰国前の報告で、貴重な経験を教材として授業をしたいという決意を熱く語りました。



ゴムの樹液の塊  
弾力性と匂いに驚く

## 30年：人と人のつながりが紡ぐマレーシアと日本の友好の絆



多くの参加者で  
熱気に包まれる会場

2月24日、マレーシア教育大臣の出席の下、マレーシア青年研修帰国研修員同窓会設立30周年記念パーティーが行われました。教育大臣からは、多くの教員が参加した青年研修の貢献に言及があり、意義が共有されました。当日は、インドネシアとカンボジアの同窓会メンバーもお祝いに駆けつけ、華やかな衣装に身を包んだ約300名が参加、大いに賑わいました。会場には、最初の派遣となる1984年当時から今に至るまでの研修や同窓会のイベントの写真が見られるコーナーも設けられ、30年の歴史を裏付けました。「私は研修員です」。当時学んだ日本語はまだ彼らの記憶に残っており、同じ経験をした仲間との絆や日本への強い思いが感じられるイベントでした。

マレーシア青年研修帰国研修員同窓会：1987年設立、マレーシアの公務員、実業家などからなる会員約3,500名 <http://pamaia.org/>

## 自分たちの海を大切にしてほしい：ボランティアがゴミ拾い

1月13日、環境分野で活動をする青年海外協力隊員6名が、マレーシア廃棄物管理公社クダ支社、クダ州教育局、NGO Trash Heroと協力して、ランカウイ島の海岸でゴミ拾いを実施しました。このイベントでは地元の小学校と中学・高校から参加した100名近い生徒とともに、約1時間で460kgのゴミを回収しました。ゴミ拾い開始前には、海洋汚染についてのアクティビティを実施し、生徒達と環境について学びました。持続可能な環境のために自分たちができることについて考えるきっかけになればと願っています。



生徒に海洋環境の重要性を説く  
ボランティア  
／一生懸命ゴミを拾う参加者

## 海上救助、海洋環境保全や防災に携わるアジアの実務者が集結

1月27日～2月2日にかけて、2011年度から日本で実施している「海上保安実務者のための救難・環境防災コース」研修の過去の参加者、5ヶ国の14名がマレーシアに集まりました。期間中、参加者は、日本の海上保安庁とマレーシア海上法令執行庁（MMEA）の海上合同訓練を船上にて視察した他、MMEAの研修施設において帰国後の業務改善の状況を共有・議論、救難・環境防災に関する補講を受けるなどしました。JICAは、10年以上に亘り、マレーシアにおいて海上保安分野の協力を行っており、MMEAを地域の教育・訓練拠点にする支援を行っています。今回の補講でもMMEAの講師も迎え、この取り組みに向けてさらに前進しました。



全ての行程を終えて  
それぞれの制服で記念写真

## 水道からの漏水などの削減に向けて東京都のノウハウを活用



東京水道サービス社による  
講義に熱心に聞き入る参加者

無収水とは、水道事業者が水道料金を得られない水のことです。マレーシアでは浄水場から各家庭に届くまでに漏水として失われてしまうものがほとんどです。マレーシア政府は2013年の時点で36.6%の無収水率を2025年までに25%まで下げるという目標を掲げています。JICAでは、2%という世界一の無収水率を誇る東京都の協力を得て、ボルネオ沖に浮かぶラブアン島で無収水削減のためのプロジェクトを実施しています。物理的な漏水の検知・修理の技術向上を図るとともに、日本企業も入り、SCADA（監視制御）を使って水の流れを監視し、漏水の早期発見、効率的な水利用に繋げるシステムの更新もお手伝いしています。1月29日～31日には、関係者によるワークショップをラブアン島で開催しました。

「SCADAを活用した水運用・NRWマネージメント能力向上」 期間：2017/8-2020/3 マ側機関：エネルギー・グリーン技術・水省

### その他のニュース

●教師海外研修 マレーシア研修記（2018年2月7日）

<https://www.jica.go.jp/sapporo/topics/2017/ku57pq00000ibk7j.html>

●とち製菓の和菓子8品が、ハラル認証（マレーシアJAKIM認証）を取得！（2018年2月15日）

<https://www.jica.go.jp/obihiro/topics/2017/ku57pq00000idq5a.html>

●マレーシア流！生徒も先生も輝く授業づくり（2018年2月20日）

[https://www.jica.go.jp/hotangle/asia/malaysia/20180220\\_01.html](https://www.jica.go.jp/hotangle/asia/malaysia/20180220_01.html)

●北上市の㈱アサヒテクノが採択（2018年1月15日）

<https://www.jica.go.jp/tohoku/press/ku57pq00000gy8se-att/ku57pq00000i6t28.pdf>

●【草の根技術協力事業】マレーシア国コタキナバル市、家庭ごみ分別にむけた協力（秋田県）（2018年1月5日）

<https://www.jica.go.jp/tohoku/topics/2017/ku57pq00000i6gww.html>



## マレーシアのヒンドゥー教徒の奇祭：タイプーサム

多民族国家で多宗教国家のマレーシアでは、多種多様な宗教行事を見ることができます。今回紹介するヒンドゥー教のお祭り「タイプーサム (Thaipusam)」は、インド発祥でありながら、その過激さゆえ本国では禁止されており、マレーシアとシンガポールでのみ開催されています。開催日は毎年「タイ」の月（1月か2月）の満月の日で、敬虔なヒンドゥー教徒が苦行をすることで神々に感謝を表します。参加する信者は1ヶ月前から厳格な菜食主義を守り、数日前から断食をして精神面での準備を整えます。当日はカバディと呼ばれる一人用の神輿を担いだり、引いたりして寺院までの道のりを行進するのですが、このカバディを固定するための針を体中に刺したり、引っ張るためのフックを直接背中に引っ掛けたりするなど、かなり痛みを伴う行為であることから非常に危険なお祭りと言われています。私も、1月31日に、ペナン島ウォーターフォールで実際にその様子を見てきました。

普段は中華系の人が多いと感じるペナン島ですが、開催場所に到着すると、ここはインドかと思うほどインド系の人、インド系の音楽、インド系の香りが溢れ、そして熱気に包まれていました。ペナン島では3日間かけて大々的に行われており、この日はその初日でヒルトップムルガン寺院に向かう信者の行進を見ることができました。体中に太い針を刺し歩く信者は見ていてとても痛々しいのですが、心と体を整えて臨めば決して痛くはないそうで、途中、針の追加をする人もいました。女性の参加者や民族の壁を越え、中華系の参加者も目にしたことは驚きました。参加者の中でとても印象に残った青年がいます。休憩中の彼は身動きがとれないため、家族と思われる付き添い者に水を飲ませてもらっていました。数分後、同年代の仲間達からも音楽や踊りで励まされ、自らも鼓舞するように一緒に踊りながら再び歩きだしました。始めは好奇心で見えていましたが、支える家族や仲間の温かさ、宗教がもつエネルギー、純粹で強い祈りを感じ、そこからは写真を撮るのも忘れ、その世界に引き込まれていました。

(青年海外協力隊 (障害児・者支援) 佐藤 友美)



JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら→ <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから→ <http://www.jica.go.jp>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → [ms\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:ms_oso_rep@jica.go.jp)

### JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia

Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900 E mail address : [ms\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:ms_oso_rep@jica.go.jp)